

ページの修理

～皺、破れ、欠損、抜け落ち～



ページの損傷は図書館資料にはよくおこります。
ここでは基本的な4つの損傷についての補修を紹介します。

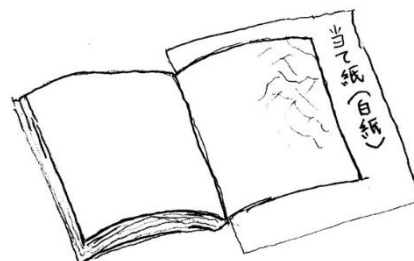
皺のぼし

皺だけでなく、折れ癖や巻き癖、過去の補修による引きつれなどの傷みも以下の方法で、平らにすることができます。

手順

1、水分を与える

処置したい部分に、筆か硬く絞った濡れタオルで水分を与える。決して与えすぎないように注意する。このとき、図書の場合は他のページに水分が浸透しないように白紙を敷いておく。



2、水分を吸い取る

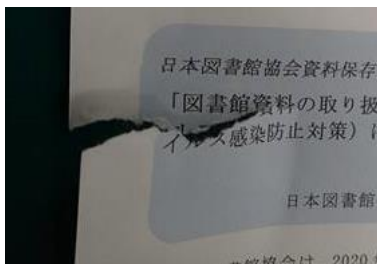
水分で紙が伸びたら、ページの前後に白紙を挟み、水分を吸い取る。

3、乾かす

そのまま乾かすと紙が膨潤して歪みが生じるため、資料の上下を板で挟み、重しを載せて乾かす。



ページの破れ



ページが破れてしまった場合、一般的な資料には、市販されている品質の安定した補修用テープを使うと便利ですが、貴重な資料や長期に保存する資料については、和紙とでんぷん糊（生麩糊）を使って補修します。

劣化した紙は、補修した部分だけが丈夫になりまた硬くなるため補修していない部分に悪い影響が出る場合があります。劣化が激しい資料は補修すべきかどうかも含めて、慎重に対応しましょう。

手順

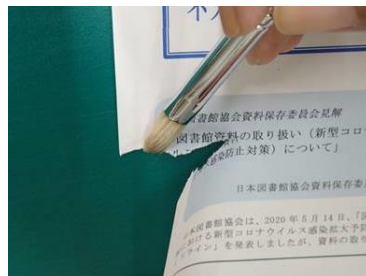
1、和紙をちぎる

水に濡らした筆で、ページの破れより少し大きめに和紙をなぞり、手でちぎる。右写真のように和紙の繊維（喰い裂き）を利用すると、貼った時に段差がつきにくくなる。使用する和紙の厚さは、欠損の補修であれば本紙と同程度以下、破れの補修であれば薄いほどよい。しかし、薄すぎると作業が難しいので2匁程度であれば印刷された情報も透けて見える。



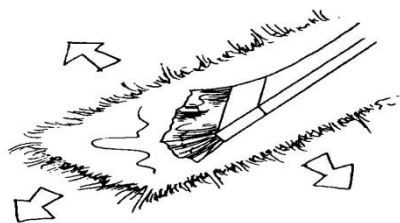
2、破れに糊を塗る

破れた部分に筆で糊を塗る。



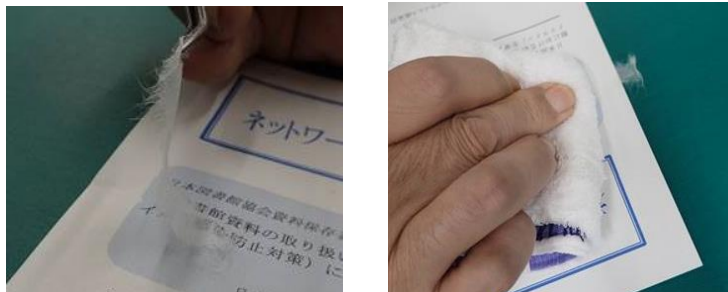
3、和紙に糊を塗る

ちぎった和紙に、筆ででんぷん糊をまんべんなく均一に塗る。和紙の繊維をつぶさないよう中央から外側に向かって糊を塗る。塗り過ぎに注意し薄く塗る。



4、和紙を貼る

破れている部分に、紙の目を合わせて和紙を貼り、ヘラ等でページとなじませてもよいが、固く絞った濡れタオルで押さえると、なじませると同時に余分な糊を取り除くことができる。



5、水分を吸い取る

和紙を貼ったページの前後に白紙を当てて、水分を吸い取る。

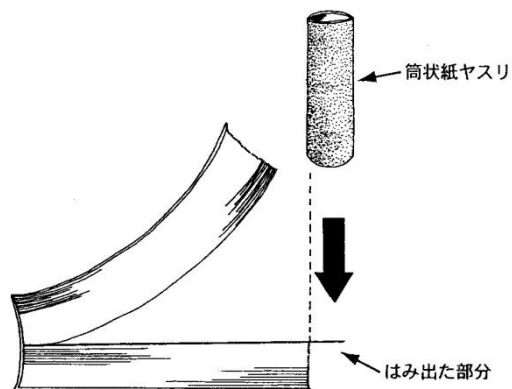
6、乾かす

そのまま乾かすと紙が膨潤して歪みができるため、資料を板で挟み、重しをのせて乾かす。



7、はみ出した部分を切る

はみ出した部分は、そのページの下に板紙を入れてカッターで切り落とすか、サンドペーパーで削ぎ落とす。

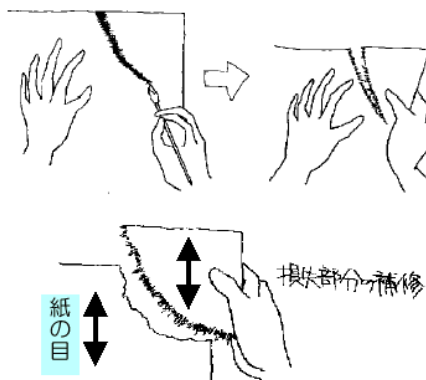


ページの一部の欠損

手順

1、和紙をちぎる

破れの場合と同様の方法で、欠損部分より少し大きめにちぎった和紙を用意する。和紙の厚さは本紙と同程度以下がよい。



2、和紙に糊を塗る

ちぎった和紙の繊維部分に、筆ででんぷん糊を均一に塗る。塗り過ぎに注意し薄く塗る。



3、和紙を貼る

和紙の繊維部分と本紙の破れた部分を繋げるように貼る。ヘラ等でページとなじませてもよいが、固く絞った濡れタオルで押さえると、なじませると同時に余分な糊を取り除くことができる。



4、水分を吸い取る

和紙を貼ったページの前後に白紙を当てて、水分を吸い取る。

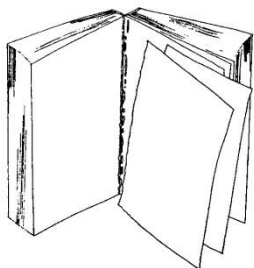
5、乾かす

そのまま乾かすと紙が膨潤して歪みができるため、資料を板で挟み、重しをのせて乾かす。

6、はみ出した部分を切る

貼った和紙のはみ出した部分は、乾いてからそのページの下にボードなどを入れて定規を当て、カッターナイフで切り落とすか、筒状紙ヤスリ(ラップの芯や紙を巻いて作った芯に紙ヤスリを巻き付けて筒状にしたもの)で削ぎ落とす。(「ページの破れ」参照)

ページの抜け落ち



本のページが抜け落ちることは無線綴じ本の場合によくあります。大量に抜け落ちたり、次々に抜け落ちそうな場合は、解体して製本しなおした方がよいでしょう。

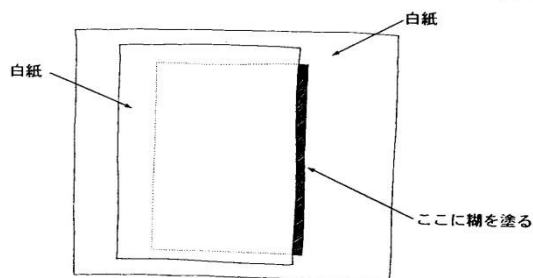
しかし抜け落ちが数枚で、ほかの部分がしっかりしている場合は、応急処置として、そのページだけ糊付けしてもよいでしょう。

手順

1、糊を塗る

抜け落ちたページのノドに細く(3ミリ以下)糊を塗る。

右図のように糊を付ける部分だけ細く覗かせて糊を塗るとよい。



2、ページを差し込む

本体をよく開いて糊の付いたページを差し込む。ページを差し込むときに、小口と天地の部分と本体ときちんと合わせ、動かないようにして、ノドの部分で定規の薄くなった方を使ったりして押し込むとよい。

3、飛び出した部分を切る

差し込んだページが小口から飛び出したら、そのページの下に厚めの板紙をいれてカッターで切り落とすか、紙を巻いた芯にサンドペーパーを巻き付けて筒状にしたもので削ぎ落とす。(「ページの破れ」参照)

【糸綴じの場合】

切れた糸を糊で止めて、損傷が広がらないようにしておく。

※本テキストは『防ぐ技術・治す技術－紙資料保存マニュアル』(日本図書館協会刊)を抜粋・修正・加筆(イラストは一部転載)したものである

ノド部分の修理

～ノド部分の切れ、ノド部分の緩み～



ハードカバーの資料の場合、表紙と中身をつないでいる見返しのノド部分が剥がれたり、切れたりすることがよくあります。

早めの手当てすることによって、それ以上の損傷を防ぐことができます。

ノド部分の切れ

見返しのノドの部分だけが切れたり、切れかかっていたりする場合の補修方法です。

つなぎの寒冷紗などが切れてしまった場合も、この方法で応急処置をすることはできませんが、早晩解体修理の必要があります。

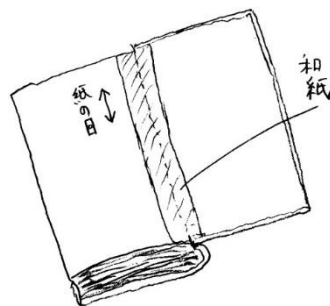
手順

1、見返しを糊で貼る

ノドの部分や表紙から見返しが剥れて浮いていたら糊付けしておく。

2、和紙を貼る

切れた部分に和紙を貼る。和紙は厚めの4～6匁がよい。紙が厚い分少し濃い目のでんぷん糊を使うとよい。ただし、糊は付けすぎないこと。しみ出て余分なところが接着するおそれがある。

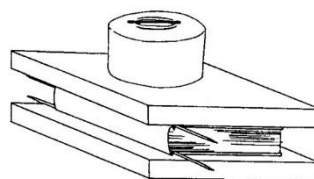


3、余分な糊を取り除く

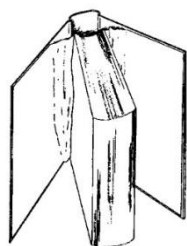
固く絞った濡れタオルで押さえて、なじませると同時に余分な糊を取り除く。

4、乾かす

表紙と見返し（遊び）の間に白紙を挟み、水分を吸い取る。板で挟んで重しを載せて乾かす。溝がきちんと出るように、溝に編み棒などを入れておくとよい。



ノド部分の緩み

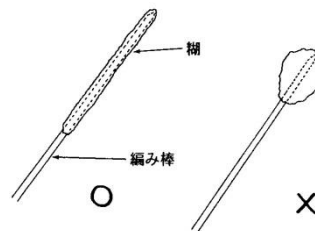


ハードカバーで重い資料やよく利用される資料の場合、表紙と中身をつなぐ見返しが、ノドの部分で剥がれてくるがよくあります。本を解体しなくとも処置できる方法を紹介します。

手順

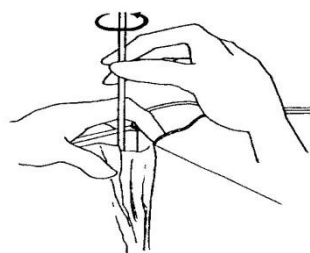
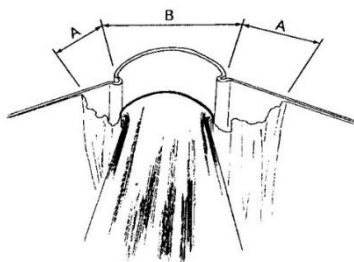
1、糊を編み棒につける

編み棒(竹串でもよい)に糊を均等にたっぷりつける。糊は濃い混合糊を使う。



2、糊を塗る

浮いたノドと溝の部分に、糊のついた編み棒を差し込み、糊を溝に塗り、さらに見返しの剥がれた部分にも擦り付けておく。天の方からと地の方からと両方から編み棒を入れる。回しながら塗ると均等に付く。図のA部分を糊で付ける。B部分は付けてはならない。

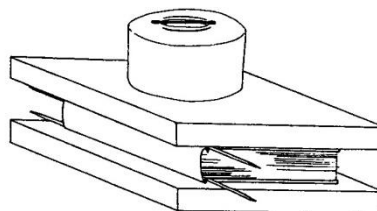


3、よく接着させる

資料を閉じて平らに置き、ヘラを使ったり、編み棒を溝の部分にしっかり当てたりして、溝をきちんと作る。編み棒の太さは溝の大きさに合わせるが、目安は4号前後である。はみ出た糊は拭き取っておく。

4、乾かす

糊がはみ出て、余分なところが接着することがあるので、表紙と見返し(遊び)の間にシリコン塗布紙を挟んでおくとよい。編み棒を溝部分にあてたままで上下を板で挟み、1時間ほど重しを載せて乾かす。



本テキストは『防ぐ技術・治す技術－紙資料保存マニュアル』（日本図書館協会刊）を抜粋・修正・加筆（イラストは一部転載）したものである。